

# いま日本のオーケストラが 世界へ行く理由

## 寺西基之×奥田佳道×山田治生

写真：竹原伸治  
Photo-Shinji Takehara

年間を通して日本各地の演奏会に生繁く通う音楽評論家の目に、日本のオーケストラ界がどう映っているのか。本誌でもお馴染みの3氏に、日本のオーケストラのいまとこれからについて、様々な角度から切り込んでいただいた。

若い指揮者の下、個性を際立たせる日本のオーケストラ

**奥田（以後奥）** クラシックのコンサートに足繁く通っている皆様に、最近の首都圏と全国のオーケストラの動向や注目度、あるいは課題だと感じることがあれば、忌憚なくお話しいただきたいと思えます。

**寺西（以後寺）** いま、オーケストラはどのも財政的に非常に厳しい状態になっています。一時期よりさらに悪くなっていますが、その中で各オーケストラが独自の企画を打ち出して、それぞれのカラーを出しているというところを買いたいです。それぞれの個性が鮮明になってきていて、特に地方都市のオーケストラがすごく面白い。一方で、東京のオーケストラは数が多いので、互いに切磋琢磨しています。最近、外国人の指揮者が多くなつて、自分の個性をオーケストラと一緒に作り上げている傾向があります。

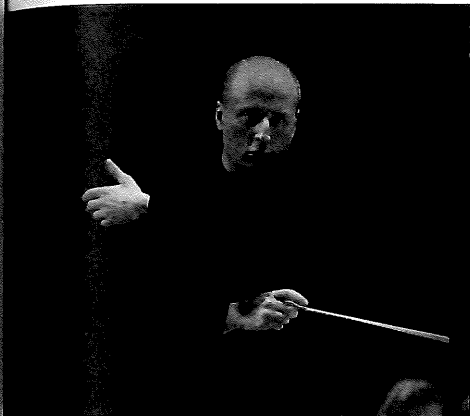
**山田（以後山）** ここ1、2年で、音楽監督や首席指揮者が変わったオーケストラが多いです。しかも、パーヴォ・ヤルヴィやピエタリ・インキネンといった若い人が起用されている。

**奥** 50歳代の指揮者は頼もしい中堅ですからね（笑）。  
**山** そうですね。今、日本のオーケストラにフレッシュな指揮者が入ってきています。以前は、日本に来る外国人の指揮者というと、キャリアを作った最後の「ヴェテラン」が多かったけれど、最近はいま進行形でキャリアを築いている人が来ています。そういう人が日本のオーケストラとコラボレーションしながら進化していくのを見るのは、興味深いです。2000年前後、東京でシャルル・デュトワやゲルト・アルブレヒト、チョン・ミン

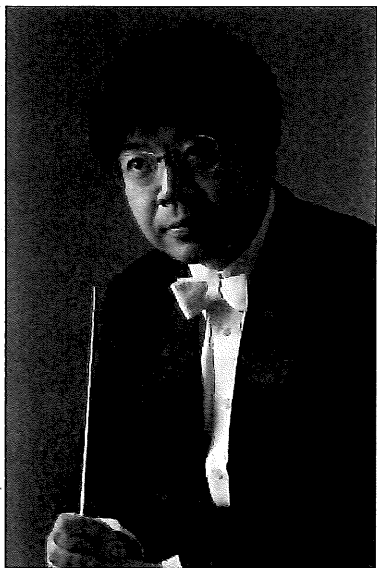
現在進行形でキャリアを築いている人が来ています。そういう人が日本のオーケストラとコラボレーションしながら進化していくのを見るのは、興味深いです。2000年前後、東京でシャルル・デュトワやゲルト・アルブレヒト、チョン・ミン

ヨンファン、ベルティニーといった大御所が揃って振っていた時代があり、その頃に比べたら派手さはないけれど、これから未来に向かって成長していく過程が見られるという意味で、いまは楽しい時代になりました。

**寺** 勢いのある若い指揮者が、その勢いを日本のオーケストラに吹き込んでいる感じがしますね。東フィルのバツティストーニなんかもその典型的な例です。  
**奥** 新しい指揮者を迎えることで、オーケストラの活動も新しくなったという話が出ましたが、例えば東京だけというと、東京シティ・フィルが高関健さんと、都響が大野和士さんとの活動を始めました。また、N響が9月からパーヴォを首席指揮者に、新日フィルは2016年9月から上岡敏之さんを音楽監督に迎えます。



パーヴォ・ヤルヴィ ©Mark Lyons

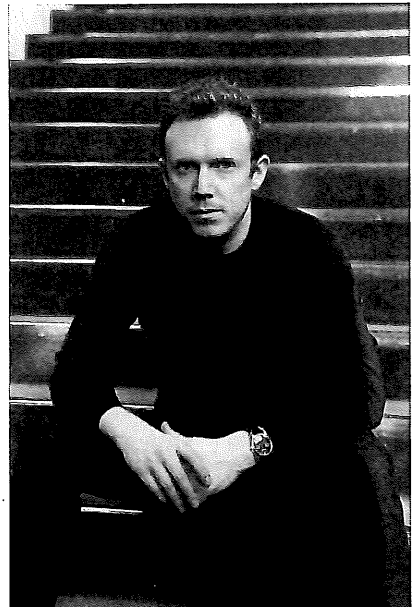


高関健 ©Masahide Sato



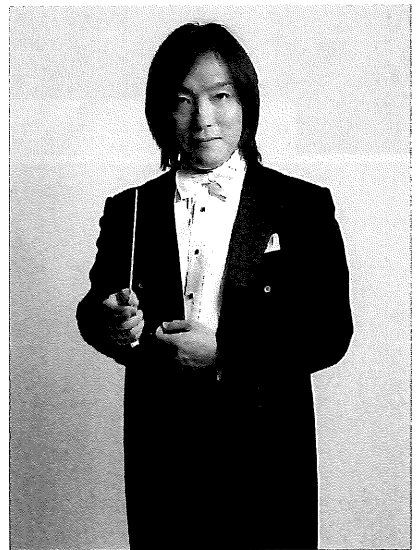
日

す。大きく動いている日本のオーケストラ界をどう感じていますか。  
山 2016年シーズンからバリ管音楽監督に就任するダニエル・ハーディングは新日フィルのミュージック・パートナー。現バリ管の音楽監督(パーヴォ・ヤルヴィ)と、次期バリ管の音楽監督が日本にいたり、スイス・ロマンド管の次期首席指揮者がジョナサン・ノットで首席客演指揮者が山田和樹だったりすること考えると、ヨーロッパの指揮者人事に日本が絡んでいるということですね。  
奥 96年にデユトワがN響の常任指揮者になった時、何か世界の潮流というか、流れの一つが日本に来て、東京の音楽シーンが世界の音楽マーケットの中で大きなポイントになったのかもしれない。その流れがここへきて加速しているというか……、情報化が進んでいる現代においては当然のことかもしれないけど、指揮者とオーケストラの継続的な取り組みが花開く



ダニエル・ハーディング ©Julian Hargreaves

寺 山形交響楽団が、飯森範親さんの発案でピリオド奏法を取り入れ、それがだんだんとオーケストラに定着しています。首席客演の鈴木秀美さんが振る時は、ほとんど毎回聴きに行っています。ほとんど毎回聴きに行っています。奥 山響というのはいわゆるシンフォニーオーケストラの中ではミドルサイズになりますね。  
寺 そうですね。ブルックナーやワーグナーも同じ編成で演奏しています。10型です。他のオーケストラならトラ(エキストラ)を入れて大型にするだろうけれど、それをやらないのが山響の一つのやり方ですね。  
奥 私は寺西さんほど現地まで山響を聴



飯森範親 ©Ryo Kawasaki

きに行っていないませんが、6月にオペラシティで聴いた時には、非常に颯爽としたモーツァルトを演奏していました。皆と同じことをやっているのではないことが伝わってきました。他に継続的な取り組みが功を奏していると思われるオーケストラはありますか？  
寺 例えば仙台フィルはヴェロがフランス物やアメリカの作品を継続的に取り入れて、音色を洗練させてきましたし、広島交響楽団は秋山和慶が長年にわたるトレーニングの上にレパトリーを大きく拡大しています。東響はスダーンの下で、それまでのオーケストラの奏法とまったく違うところから音楽を創り直しました。シューベルトで始まり、古典から広



秋山和慶 ©東京交響楽団



山田治生氏

げて10年かけて毎年テーマを掲げて演奏してきたことが、今のノットの演奏にも生かされていますよ。  
奥 ノットとスダーンは持ち味もアプローチも全然違うけれど、スダーンが作った10年間の古典音楽に対する厳しいアプローチというか、独自の土台がいまになって花開いている感じがしますね。ノット×東響はいいと思います。  
寺 そうですね。それから特筆すべきは日フィルです。日フィルは10年くらい前、演奏が荒れていた時期もあったけれど、ラザレフが来てから生まれ変わりました。最初はプロコフィエフ全曲というびっくりするような企画を打ち出して、「なぜ」と誰もが思ったと思いますが……。プロコフィエフで徹底的に鍛えあげて、響きの出し方まで含めて徹底的に訓練した結果、日フィルはラザレフの指揮では厚みのある音が出て、インキネンの時は透明感が出るといった、芸術的な対応力を身につけたと感します。  
奥 まさに日フィルの奇跡ですね！そ

れから、京都市交響楽団と広上淳一とい  
うのも、着目すべきコンビだと思いま  
す。10年前とは京響の存在位置がまった  
く変わりましたから。大阪や名古屋でも  
コンサートをしているけど、年に1回は  
東京に来てほしいね。創立60周年、新シ  
ーズンのラインナップもいいです。

山 京響は管楽器が素晴らしい。クラリ  
ネットの小谷口直子やオーボエの高山郁  
子、トランペットのハラルド・ナエスな  
ど上手ですよ。札幌は、尾高忠明音楽  
監督のもとで大きな進化を遂げました  
が、シエフがボンマーに交替し、どのよ  
うに変化したのか注目されます。群響は、  
2015年に楽団創立70周年を迎えた最  
も古い地方オーケストラの一つです。新  
しいホールの建設も決まったようで、今  
後の発展が楽しみです。

寺 京響は日本のオーケストラの中でも  
ベスト5、あるいはベ  
スト3に入るかもしれ  
ないな。

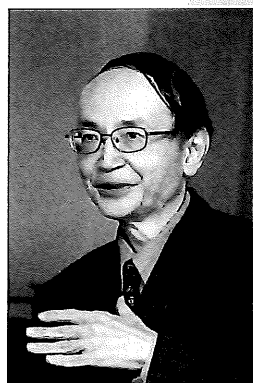
山 演奏が安定してい  
ると思います。関西の  
中でも一番安定した基  
盤をもっているからこ  
そ、良いプレイヤーが  
集まってきている感じ  
がします。

奥 その他、関西のオ  
ーケストラはいかがで  
しょう。

寺 大フィル、関西フ  
イル、センチュリー響、



広上淳一



寺西基之氏

大響の4団体とも、財政的に非常に厳し  
い状態にあります。そんな状況に負け  
ずに頑張ろうという意識が見えます。  
山 大阪は、府と市からのオーケストラ  
への助成がカットされてしまったん  
ですね。地方行政が文化を大切にしてい  
ると思えません。  
奥 山響が独自のテーマで演奏法に工夫  
を凝らして、個性派を貫くことに成功し  
たわけですが、その関西版として、大響  
の常任指揮者の寺岡清高、音楽監督・首  
席指揮者の児玉宏が挙げられると思いま

す。プログラムがヴァラエティ豊かで、  
演奏レベルも上がっている。会場  
で聴いていただくと、いまの日本のオー  
ケストラの華やきを感じられると思いま  
す。

客演指揮者やコンサートマスターに新  
機軸のある紀尾井シンフォニエッタ東  
京、メッセーシジ性のあるプログラムを創  
る、いずみシンフォニエッタ大阪も、ち  
ゃんと聴きに行かないと。

謎解きの愉しさが加わった  
プログラミン

山 以前よりプログラムが凝っているとい  
うのも最近のオーケストラの特徴だ  
と思います。ノットはプログラムがすこ  
よく考えられているし、山田和樹は一つ  
のコンサートだけでなく、複数のコンサ  
ートを総合した意味付けをしたりしてい  
ます。大野やカンブルランも示唆に富む  
プログラミンをしています。指揮者が  
得意なレパートリーだけを演奏するの  
ではなく、一つのプログラムで企画を考  
えたりする点では、レヴェルが上がった  
と言えらると思います。昔は、巨匠指揮者が  
得意なレパートリーを披露して終わると  
いうか、もちろん彼なりのこだわりがあ

りますけど、基本的にはプログラムで何  
かものを考えさせるといふのはあまりあ  
りませんでした。

奥 プログラムの中に物語があるとい  
うか、何か謎解きの要素があるといふこ  
とでしょうか。

山 そうですね。指揮者が意図をもって  
プログラミンしていると感じます。一  
方で、外来のオーケストラは名曲しか演  
奏しなくなっています。

寺 確かに。保守的すぎるくらい保守的  
になっちゃったよね。

山 2003年にベルリン・ドイツ響が  
来たときは、ケント・ナガノがブラーム  
ス《ドイツ・レクイエム》とリームの楽  
曲を重ねて演奏したりといった実験的な  
取り組みがあったのですが、いまは同じ  
ベルリン・ドイツ響が来て、ベートー  
ヴェン「7番」やブラームス「1番」のよ  
うな名曲プログラムばかり。

奥 とところで、カンブルラン×読響はい  
かがですか？ 十分に定着した、新しい  
取組に挑戦しているコンビですけれど。

寺 フレッシュなプログラミンもそう  
です。ブルックナーとマーラーなど、  
今までの全然違う角度から光を当てて演  
奏しているという面白さがあります。演  
奏自体が明晰かつ緻密ですよ。読響の  
歴史の中でこれまでは全然違うものを  
作ってくれたという気がします。

山 前衛的なカンブルランのプログラム  
にお客さんがいま一つ着いて行っていな  
い気がしなくもありません。一方です  
れくらい大胆に行ってもらわ

いと面白くないともいえます。

奥 カンブルランの最近のヒットは、9月に2回開催した演奏会形式《トリスタンとイゾルデ》のコンサートでしょうね。過去にもあのような華やかなコンサートはあつたけど、「指揮者とオーケストラがその晩の主役だった」ということを高らかに宣言する公演はありませんでした。これまで海外から有名なソリストを連れてきて、オーケストラは伴奏のような感じのものもありましたが、最近では指揮者とオーケストラが主役と感ずることが多くなっています。デュトワ×N響の《ベレアスとメリザンド》もそうでした。

細分化するオーケストラ・ファン楽団の手腕が問われる時代

奥 より多くの方に会場に来ていただくために、改めてご意見、お考えはありますか。

寺 今はオーケストラのファン層も細分化しているので、情報発信も難しいのでしょうか。

山 海外のオーケストラのことで言えば、ポストン響は、地元のFM局を使って定期演奏会をフルでインターネット配信していますよね。あのように細切れではなく全部を流すと、影響力があるのかなと思うのですが。

奥 日本ではEテレ、FM、BS含めてN響が一番メディアで接する機会が多いですよ。その次に読響。関西では、クラシック・ファンの底辺を広げるため、

藤岡幸夫が活動を続けています。藤岡×関西フィルのコンビはいかがですか。

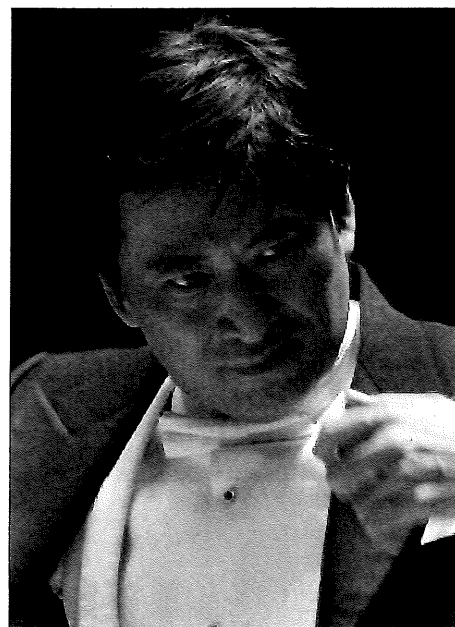
山 藤岡さんと関西フィルは、毎週火曜日の夜に民放のBSでレギュラー番組をもっているんで、全国的に認知度が高まっているのでは。

奥 あの番組を観て、「この人が指揮している関西フィルのコンサートに行こう」と思うのが自然な流れですよ。その自然な流れを作る

ことができているのが、日本ではN響と読響と関西フィルだけなんです。今をときめくノット×東響、大野×都響、広上×京響というのを、我々が日常的に放送などで楽しむことができないのは残念です。

寺 アピールしたくてもお金がないとかなかなか難しいから、オーケストラ間の格差が広がっていつてしまいます。N響以外はお金がないからメディアでのアピールがなかなかできないというのは非常に問題がありますよね。

山 ただ、お金をかけなくても工夫次第でもっと魅力アピールできると感じることがあります。先ほどお話しした疑っ



藤岡幸夫 ©青柳 聡

たプログラムにしても、演奏会の前

の内容がうまく伝わっていたら、じゃあ聴いてみようと思う人は出てくると思うのですが……。

奥 ツイッターやフェイスブックを使って発信することもできますよね。それらを日本で活用しているのは、断然名フィルかもしれない。ハッシュタグをつけて、お客様からの感想を募って全部のコメントに目を通すそうです。それで、翌月の定期演奏会のプログラム冊子にお客様の会場のアンケートの声とネットの声を、賛否両方掲載する。主催者からすれば耳の痛いことまで全部載せているんですよ、評論家の意見も含めて。

よね。

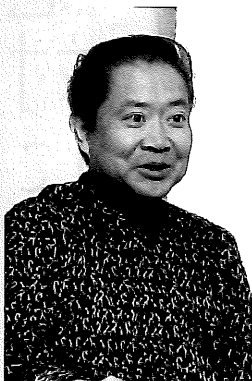
奥 東京オリンピックに向けて文化芸術立国日本を謳っているけど、掛け声だけ？ それとも別の分野に助成が行ってしまっているのかしら。音楽業界の、いわゆるロビー活動をもっと強化する必要があるのかもしれない。

さらに、幅広い世代にアピールするためには、学生券の料金設定や、開演時間への細かな気配りが求められていると思います。

寺 何かきっかけがあれば、若い人もオーケストラのコンサートを好きになつてくれると思うので、まずは足を運んで聴いていただきたいです。

山 これからのクラシック界を担っているのは若い聴衆ですからね。

奥 より多くの人に「オーケストラのいま」が届くように、情報発信をする側の私たちも努力しないとイケませんね。



奥田佳道氏